

令和5年1月提出

大船渡市議会議長 様

会派名 新政同友会

会派視察報告書

視察先/視察項目

(1) 令和4年11月30日(水) 長野県小布施町

自然エネルギーを活用した町づくりについて

視察参加者 市議会議員

三浦隆、熊谷昭浩、西風雅史、今野善信 計4名

1 自然エネルギーを活用した町づくりについて

小布施町は人口 10,634 人（2022 年 12 月 1 現在）、面積は 19.12 km²で、半径 2 km の中にすべての集落が入る、長野県で一番小さな町である。

千曲川と松川が合流する地点にあり、二つの川が合う「逢う瀬」が「小布施」となったとも言われている。

600 年の歴史を持つ小布施栗や、郷土料理が自慢である。

住民参加の「花のまちづくり」も盛んで、四季折々に彩る花の美しい町であり、年間 120 万人の来訪者を誇る信州屈指の観光地である。



🌸町づくり

1982～87（昭和 57～62）に民間と行政がそれぞれの役割を分担しながら周辺の町並修景事業を実施。「うるおいのある美しいまちづくり条例」も制定され、町民や事業者とともに町全体で景観づくりに取り組む。2016 年には「小布施町国道 403 号新しい市庭（いちば）通りを創生する会」を立ち上げ、国道 403 号の未来図をイラストとして起こし目標となる青写真を完成。未来はかつての小布施の姿として、毎月一回のペースで現在も引き続き会議を行っている。



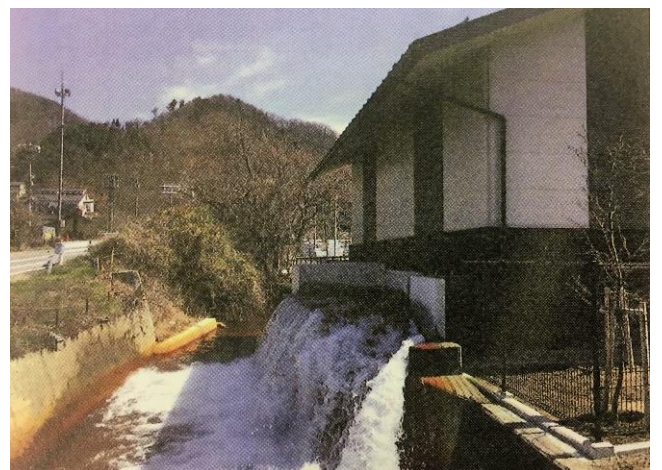
🌸 自然エネルギーを活用した町づくり

長野県は、太陽光（熱）、小水力、雪氷熱、地（中）熱、温泉熱、風力、バイオマスなどの自然エネルギー資源が豊富である。その自然エネルギーを最大限に活用できるよう、「一村一自然エネルギープロジェクト」を推進している。その見える化として2012（平成24）年度からは登録制度を開始し、2021（令和3年）3月末現在で292件が登録し取組を行っている。

小布施町では、2012（平成24）年6月から小布施エネルギー会議を立ち上げ、いち早く自然エネルギーの活用を検討してきた。

「人と自然エネルギーが心地よくつながるまち」を目指し、全国で自然エネルギー発電所を展開している自然電力(株)、(株)Goolight、小布施町の3者によって2018（平成30）年「ながの電力(株)」が設立された。現在、小布施エネルギー会議をきっかけに作られた長野自然電力合同会社による小水力発電所が稼働しており、ながの電力は今後、法人・個人向けの電力サービスと地域貢献を順次展開していく。

また、2020年に策定された小布施町の中期計画「第6次小布施町総合計画」において、基本計画6項目の一つ「環境・防災・インフラ」の中で重点施策の一つに「環境先進都市への転換」を掲げ、自然エネルギー利活用の推進、ごみゼロの推進など、持続可能な未来に向けた取組を進めている。



小布施松川小水力発電所

☆おぶせ環境未来会議

「おぶせ環境未来会議」では、小布施町が排出する温室効果ガス（推計値）の内訳を調査・分析し、その数値に基づき具体的な計画「小布施町環境ランドデザイン」を策定している。

目指すべき町の姿「環境防災先進都市」として

- ・ゼロ・カーボン 温室効果ガスを出さない町
 - ・ゼロ・ウェイスト ごみを出さない町
 - ・防災・レジリエンス 災害に備えしなやかに対応する町
 - ・観光のサステナビリティ 訪れる人もサステナビリティを体感できる町
- を掲げ、各領域での達成目標を設定している。

また、政策推進で意識したい4つのこととして

みんなで取り組む

景観も大切にする

データで可視化する

健全な財政に貢献する

を上げている

実現に向けては、

(1) エコな移動手段への転換

公用車への電気自動車の導入、一般家庭での購入補助 など

(2) 熱エネルギーの木質化・エコ化

地域の木質資源活用・近隣自治体との協力＋公共施設や民間施設にボイラー導入、間伐材の活用による薪ストーブの推進 など

(3) エネルギーの地産地消（自給自足）

町内での電力の自家消費、公共施設の屋根上での発電、太陽光パネルや蓄電池への補助、バイオマスボイラーに併設する「電熱併給」システムの活用 など

(4) 省エネの推進

住宅の高断熱化への補助制度の紹介／独自の補助制度の検討
事業所等への高効率暖房等の導入推進 など

☆小布施町「次世代型インフラの実現に向けた包括連携協定」

町と民間企業3社との連携協定

小布施町、株式会社 Goolight、株式会社シグマクス、自然電力株式会社

包括連携協定の狙い

- ・電気・水道・通信の各領域に知見と技術、ネットワークを持つ民間企業との協働により、総合計画の目標を実現可能な行動計画に落とし込む
- ・電気・水道・通信の各領域を個別に検討するのではなく、領域横断での包括連携協定とすることで、整備費用の適正配分と、施策間の相乗効果の最大化を実現する。

「次世代型レジリエントタウン」への転換を目指している

大切にしたい4つの価値観

- ・縮小時代への公共インフラ — 縮小社会にあった持続可能な公共インフラを持つまちを実現する
- ・地球環境への貢献 — 地球環境に貢献する脱炭素型のまちを実現する
- ・災害を前提とした都市構造 — 頻発する災害への高いレジリエンスを持ったまちを実現する
- ・自然と文化の共生・調和 — 小布施の歴史や文化の特色を活かしたまちを実現する

ながの電力地域エナジーデザイナーの談

「Apple、スターバックス、ソニー、リコーなどよく知られている企業が加盟する自分たちの使うエネルギーを100%自然エネルギーにしようという『RE100』という国際イニシアチブがあるように、今後自然エネルギーがより身近に感じられる世の中になっていくと思います。ながの電力では事業を通して、売上の一部を地域の未来にとって良いこと、必要なことに還元していく予定です。そうすることで地域に新しい事業の種が生まれ、人が地元に戻ってきたり、移住するきっかけになるような仕掛けが出来たら良い。また、ワークショップ等を通して自然エネルギーを身近に感じられる機会を提供し、少しずつでも環境を意識してもらうきっかけ作りができればいいと思っています。小布施町だけでなく北信地域全体が、自然エネルギーの先進地域になると素敵ですね」

拠点を構える小布施町では、再生可能エネルギー資源の豊富な近隣市町村と連携し、地域で使うエネルギーは、地域調達するRE100の実現を目指している。